

第 45 回 諜報研究会 大堀聰 レジюме

「第二次世界大戦下の欧州邦人（軍人編）～藤村義一中佐のスイス和平工作を中心に～」

第二次世界大戦下のヨーロッパには約 9 0 0 名の日本人が実質本国とは隔絶されて暮らした。その内軍人に関して、俯瞰的に眺めるものである。その際独自に入手した史料を適宜紹介、使用する。

第一章 欧州邦人とは

- 1 欧州邦人の規模
- 2 孤立した欧州邦人は暇であった
- 3 ヨーロッパ主要日本海軍関係者

第二章 藤村義一中佐の和平工作

4 藤村義一経歴

1907 年 2 月 24 日生まれ

1927 年 海軍兵学校卒業 (55 期)

1940 年 ドイツ駐在 (兼フィンランド補佐官 11 月～)

1943 年 中佐

1944 年 フランス補佐官 (ドイツ兼任)

1945 年 スイスへ (38 歳 3 月～)

5 藤村中佐のスイス和平工作概略

45年

3月18日 津山重美とベルリンからスイスへ向かう

5月7日 ドイツの降伏で同盟のくびきから解放。ドイツの海軍武官室との連絡も絶たれる。

笠信太朗と相談。フリードリッヒ・ハック（亡命ドイツ人）とコンタクト（23、25日）

6月5日 日本へ第一電 スイスでのアメリカとの交渉の提案（5月8日ではなく）

7月17日 日本のデリケートな事情も分かる。しかし私はこの件に関して何かをやりたい

7月22日 この件は外務省に移管した

7月26日 貴電受領。私はこれまで不注意な行動をとったことはないし、将来もない

51年5月 「痛恨！ダレス第一電」文春砲～終戦史の一章

6 藤村工作評価の推移

評価大→下降・忘却→整理し再び真実を（今回の真実）

7 フィクションの部分

当時日本に正しく伝えなかったこと

戦後脚色したこと

8 藤村の戦後の釈明・スタンス（TV放送後）

9 回想の根拠

10 藤村スイス入国の経緯

11 和平の打電の日はなぜ繰り上がったか？

12 自己顕示欲(意志)の強さを示す証拠 1、2

13 藤村ルートは笠信太郎と友岡久雄？（進歩派ルート）

加瀬俊一－岡本清福－北村孝治郎－ヤコブセン（保守派ルート）

14 和平工作のイニシアチブと意義

自分が何かをやりたい。和平交渉はスイスで

笠、ハックは支持「才幹をもつただ一人」と評価

ハックとの会話をアメリカ側と錯覚？

第三章 陸軍武官室の活動

15 陸軍の体制

坂西武官送別記念 1942年11月29日

16 岡本清福中将

陸軍軍人も和平に動く

17. スキー休暇

第四章 満州国・諜報関係者の痕跡

18 諜報関係者の足跡 1 (武官室電等から読めること)
秋草俊 (星野一郎)

19 日欧間の戦時交流ルート

20 事実は小説より地味なり!?

20-2 「マレーの虎」山下奉文 (ともゆき) のベルリン

20-3 秋草のドイツ入り経路 照国丸

21 諜報関係者の足跡 2

22 外交官パスポートを所持した軍人

23 ドイツ国日本人名簿 42年4月現在

24 満州国公使館員逸話

25 満州国ハンブルク総領事館

第五章 駐在武官紹介他

26 山本五十六の懐刀、光延東洋武官

27 細谷資芳駐フランス海軍武官
ドイツ軍占領下パリのリーダー

- 28 吉川春夫海軍中佐 最期のメニュー
- 28-2 末松茂樹少佐 郵便を書きまくる
- 28-3 重光晶（後のソ連大使）の見たギリシャ戦線
榊原主計（さかきばらかずえ）ブルガリア駐在武官と

以上